

うつほの杜学園小学校 評価ポリシー (Assessment Policy)

1. 評価の理念(Philosophy)

うつほの杜学園小学校では、形成的評価と総括的評価の両方を重視し、評価そのものと「学びの物語の集大成」と捉える。児童一人ひとりの探究の過程と成果を理解し、支援するための手段と位置づける。評価は、児童の「関係力」「探究力」「創造力」といった非認知能力のみならず、「自分軸」「冒険マインド」「グローカルリーダー」を育むための重要なプロセスであり、学習者が生涯学習者となるために学びを自ら進めていくエージェントとなる自己理解と、学びの過程の重要性についての共通認識と共通理解を踏まえた自己成長を促進するものである。

2. 評価の目的(Purpose)

評価は以下の目的で行われる：

- 学習者が自らのその時点での理解度やスキルをメタ認識し、次の学びへの目標を設定するため。
- 教員が学習者のニーズを把握し、より良い指導方法にするため。
- 保護者と学習の進捗を共有し、協働的な支援体制を構築するため。

3. 評価の原則(Principles)

- 繼続性：評価は学習の全過程で継続的に行われる。
- 多様性：多様な評価方法を用いて、学習者の多面的な能力を捉える。
- 透明性：評価基準や目的は事前に明示され、学習者と共有される。
- 参加型：学習者自身が評価に積極的に関与し、自己評価や相互評価を行う。
- フィードバック重視：評価は建設的なフィードバックを通じて、学習の深化を促す。

4. 評価の種類(Types of Assessment)

形成的評価(Formative Assessment)

学習の過程で行われる評価で、学習者の理解度やスキルの習得状況を教員と学習者が把握し、指導の改善や学習者の自己調整を支援する。

総括的評価(Summative Assessment)

学習ユニットの終了時をはじめとする適切な時期に行われる評価で、学習者の知識やスキルの習得度を教員はループリックを用いて、学習者は自己評価シートで確認し、総合的に判断する。

自己評価・相互評価(Self and Peer Assessment)

学習者が自らの学習を振り返り、他者の学習にも関与することで、メタ認知能力や協働的な学びを促進する。

5. 評価方法 (Assessment Methods)

学内で評価方法の詳細についての規定を用意しているが、なかでも重要な点は以下である。

- 観察: 教員が学習者の行動や対話を観察し、学習の進捗を記録する。
- ポートフォリオ: 学習者の作品や記録を蓄積し、成長の軌跡を可視化する。
- プロジェクト評価: 探究型学習の成果物を評価し、学習者の思考過程や創造性を捉える。
- ループリック: 明確な評価基準を設定し、公平かつ一貫性のある評価を行う。

6. 評価の記録と報告 (Recording and Reporting)

- 記録: 評価結果はデジタルツールや記録シートを用いて体系的に管理される。
- 報告: 定期的に保護者との面談やレポートを通じて、学習者の進捗や成果を共有する。
- 振り返り: 学習者自身が教員からの評価と自己評価をもとに自己の学びを振り返り、次の目標を設定する。

7. 評価の調整と改善 (Review and Improvement)

評価ポリシーは定期的に見直され、教職員や保護者、学習者のフィードバックを取り入れて改善される。また、最新のガイドラインや教育研究を参考にし、評価の質の向上を図る。

制定 2025年8月20日